

令和5年度 狭山市立西学校 学校自己評価・学校関係者評価表

※【学校自己評価の目安】A:よくできている(90%以上)B:概ねできている(85%以上)C:あまりできていない(70%以上)D:できていない(70%未満)

領域	番号	評価項目	学校自己評価			学校関係者評価委員から
			R5	R4	説明	評価(文章表記)
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	A	・学校教育目標に関連する項目について、生徒及び保護者の評価結果は高い数値を示している。 ・清掃については、校内で共通認識を図り、取り組んだ結果、無言清掃の取り組みが定着してきている。生徒の評価も前年度よりも5ポイント以上高いものとなった。 ・校内の安全点検にICTを取り入れ、報告や集計の利便生の向上を図っている。しかし、施設や設備の老朽化が進み、修繕が追いつかない状況が続いている。限られた予算を有効に活用するため、生徒の安全と学習活動を保証するため、優先順位を決め、計画的に学校を整備する必要がある。	・目標が明確に示されており、生徒・保護者・学校の間で共有できている。 ・一般的に学校の努力が伺えます。特に今年度のテーマである不登校対応については、少しでもできることをしていこうという姿勢が見受けられて良かった。 ・学校の重点目標も明確に示されており、教職員の教育活動も研修を通じて共通理解のもと、協力して取り組まれていると思います。「不登校生徒の支援(選択肢)の充実」は、生徒が抱えている問題や環境が個々に違うので難しい課題ではありますが、今年度の成果を活かし、今後も同じ水準でご継続頂きたいです。 ・学校運営に明確な目標があり、その目標に向かって邁進する運営が為されていると感じる。施設、設備の老朽化は進んでいるが、修繕に併せて改善も進められていると感じる。 ・結果から目標達成できていることが分かる。学校施設・設備の管理は予算が大きく関わるため、行政の課題だと思う。 ・自己評価は、令和4年度より上昇していて良好な学校運営が行われています。学校運営協議会の教職員評価が下がっており、検討する内容や意見の反映の方法などを検討する必要があるかもしれません。
	2	生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A	B		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	A		
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	A	B		
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	B	B		
学習	6	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	B	・教員は、生徒の個に応じたわかる授業に努めているが、未だ生徒の学力向上には課題があり、教員の授業改善が不可欠である。生徒の学力を向上させている教科もあり、研修を行い学校全体での向上を図りたい。 ・生徒の、規律ある授業態度についての評価は高く、教員の認識も同様であり、落ち着いた態度で学習に取り組んでいる。 ・生徒の、家庭学習への取り組みについての評価は、生徒アンケートの中で最も低いものであり、大きな課題となっている。小学校とも連携し、また、タブレットを活用するなど、具体的な改善策を検討する必要がある。	・概ね良好です。生徒も自覚しているようですが、家庭学習の習慣をつけることが引き続き課題です。 ・「家庭学習の習慣」化について検討していく必要があると考える。 ・家庭学習の習慣は家庭の課題です。回答率から保護者の関心の低さが分かる。保護者の状況改善が家庭学習・学力向上に必要です。またタブレット学習は熱心にやればやるほど学力低下する調査結果があるので、適切利用とは何か検討し、利用したい。 ・学力向上は学校だけの問題ではないものの課題ではある。タブレット学習を有効活用できると、学習に遅れがちな子や学習機会を確保しにくい子へのフォローとして活用できるので、学校外でもオンライン授業として限定公開ができると良い。家庭での学習できる環境のない子へ、どこか地域で学習できる場所があると良い。 ・どの学年も7割以上の生徒が「家庭での学習に力を入れて取り組んだ」と回答していることから、充分家庭学習の習慣は着いているものと感じる。対して、学校自己評価で学力向上に結び付いていないとされているのは、家庭学習における生徒たちの学習法(要は勉強のやり方)が間違っている表れでもあると感じる。勉強と学びは、必ずしも同義ではないと考えている。生徒たちは、「机に向かって教科書や参考書、ノートを開いてやる」ことだけが勉強、つまり学びであると認識しているのではないのか？何かを学ぶ時、その起点になるものは個人の好奇心だが、多くの場合、【興味の無いことでも無理矢理知識として溜め込もうとする行為】を【勉強】だと思っている人が大人でも多いと感じる。実際には、日常生活の中にも多くの学びがあり、日常的に使用しているもの、行っている行為等の中にも、学校で習っている教科と密接に関係していることが無数にある。教科毎に、その教科で得られる知識が世の中の(または生活の、社会の)どんなことと関連しているのか、どんなことに応用されているのか、等々、多角的に好奇心を刺激させ、生活の中での気付きを書き留めるだけでも、結構な量の学びになる。「書き留める」という行為が知識の定着にも効果的であるという体験は、生徒が自分自身に合う勉強法を確立させていくことにも繋がる。個人によって好奇心が刺激されるポイントが違うので難題ではあるが、生徒たちそれぞれが持つ好奇心を刺激してやることが、生徒の学習意欲と学力向上の近道だと思う。
	7	生徒は、落ち着いた学習に取り組んでいる。	A	A		
	8	生徒は、基礎的基本的な学力を身につけている。	B	B		
	9	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	C	C		
	10	生徒は、英語活動をととして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B	B		

令和5年度 狹山市立西学校 学校自己評価・学校関係者評価表

※【学校自己評価の目安】A:よくできている(90%以上)B:概ねできている(85%以上)C:あまりできていない(70%以上)D:できていない(70%未満)

領域	番号	評価項目	学校自己評価			学校関係者評価委員から
			R5	R4	説明	評価(文章表記)
規律ある態度	11	生徒は、進んであいさつをしている。	A	A	・規律ある態度に関しては、教員は連携して生徒の指導に取り組み、生徒及び保護者による自己評価においても高い結果が出ている。 ・生徒の良さを認めつつ、今後も気を引き締めて指導にあたり、自律できる生徒を育てていきたい。	・結果から目標達成できていることが分かる。引き続きの取り組みを期待します。 ・大変よくできています。素晴らしいと思います。 ・生徒はあいさつもよく出来ており、自転車通学の姿を見ても、交通ルールがしっかりと守られており、好感が持てる。 ・学校や朝の通学路で生徒たちに挨拶をすると、素直な挨拶が返ってくる。西中の生徒たちは、十分に規律的であると感じている。 ・あいさつ、無言清掃、言葉遣い等の生徒の様子から、先生方の連携したご指導の成果を感じることができました。全員が利用しているものではありませんが、SNSを利用する生徒が増え、正しい使い方やルールの決め方など、生徒や保護者へのご対応が今後も課題になるのかと思います。 ・学校での規律よりも、家庭での規律がどれだけできているかが課題。学校での規律は学校という集団生活の中である程度、できていて当然。
	12	生徒は、場に応じた言葉遣いができている。	A	A		
	13	生徒は、時間を守って生活している。	A	A		
	14	生徒は、きまりを守って生活している。	A	A		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A	A		
健康・体力	16	学校は、生徒の体力を高めている。	A	B	・今年度は、感染症予防のため中止や縮小されていた体育祭などの行事や、運動部活動の各種大会が再開、実施されたが、夏季の運動部活動については、熱中症予防のために行うことができない日が多かった。生徒の健康、安全面に配慮しつつ、生徒の運動の機会をふやしていきたい。 ・家庭での睡眠時間などの問題について、保健委員会の生徒による啓発活動を実施した。今後は保護者への啓発も行いたい。	・学校行事等も元に戻り、元気に学校生活が送れているようです。 ・感染症予防や熱中症予防などに配慮しながら、体育祭など多くの行事を再開させており、これは大きな成果であると考えます。 ・感染症対策の緩和で増えた学級閉鎖、酷暑の為に増えた活動の休止、変更等、本年度の状況故の課題は多かったはずだが、生徒や保護者たちの健康に対する意識は充分だと感じるし、生徒の体力面でも見劣りすることはないと感じられる。 ・睡眠の問題は本校だけではなくあります。子どもの健全育成には睡眠教育が必要ですが、学校は他の課題への取り組みで疲弊しているため、生徒・保護者への啓発は外部講師の利用が良いと思う。 ・健康や体力という点では、朝食を取らずに学校へ来ている子がどれだけいるのか気になるところです。学校行事や部活の再開ではなく、実際の子どもの体力面や健康面として考えた場合、どうすれば体力や健康が向上するかの視点もほしい。
	17	生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	B		
	18	生徒は、健康を意識した生活をしている。	A	A		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	B	・保護者に対しては、学校だよりをはじめとした各種たよりの発行やホームページでのお知らせの他、保護者に対して便り等のデジタル配信を行った。また、一部行事のYouTubeの限定公開を行った。今後は、地域に対しての発信を高める工夫を考えたい。 ・今年度は、生徒の地域でのボランティアや発表会等への参加が再開され、多くの生徒が参加した。 ・教員の、PTA活動への参加についての評価は、積極性に欠けていたと評価する者もいた。	・学校からの情報発信は適切に行われています。今後も継続してください。教職員自らが課題だと考えているところは、積極的に行動していただき、改善されることを期待いたします。 ・学校公開、また、市の防災訓練における生徒の参加などから、地域に開かれ、知ってもらおうとする学校の姿勢が感じられる。 ・コロナ禍での制限が緩和された分、本年度は活性化された印象が強い。コロナ禍だったからかも知れないが、中学校は校区が広いこともあり、小学校ほど地域との繋がりを感じ難かった。やはり地域に対する発信力は、今後の大きな課題だと感じる。 ・地域への情報発信の手立て確立が必要です。また、教員のPTAへの関わり方は「関わらない」や「余裕のある方が参加」という見直しをすべきと思う。しかし今後、地域連携は必須、学校と地域が子どもに対する共通理解や情報共有の手立ての確立は必要です。 ・保護者以外の地域の人への情報発信は、どこまで発信するのか非常に難しい。今後、不登校対応などを考えると、地域との連携は必要だが、連携したいと思える存在をどう探すかも必要。 ・学校自己評価に「教育の、PTA活動への参加についての評価は積極性に欠けたと評価する者もいた」とありましたが、学校と保護者の相互理解を深めるためにも、学校と保護者のつなぎ役としてPTAは取り組みますので、今後も先生方のご理解を頂けたらと思います。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B	B		